

「第1回大井川鐵道全線復旧・復興に向けたまちづくり意見交換会」意見要旨

【出席者】 参加メンバー12人

【日時】 令和6年6月5日（水） 午前10時から11時40分

【場所】 総合支所2階

【内容】

内容（要点筆記）

●意見交換会の目的・趣旨について説明後、意見交換。

《イベント関係》

- ・今年も6月8日から12月までトーマス号が運行し、新金谷及び千頭駅でトーマスイベントを実施予定。
- ・令和5年12月から令和6年3月まで、大鉄アドバンスによる湖上駅ツアーイベント実施し、1500人弱の参加があった。今年は、夏秋に日帰りツアーを実施予定。
- ・寸又峡1泊プランも開催を予定している。観光客も団体から個人へ形態が変更しているが、バスツアーを設定し、入込客数を確保していきたい。
- ・SL運転の重要性。大井川鐵道の歴史を学ぶことが重要。歴史に特化したイベント事業の実施をしたらどうか。
- ・大井川鐵道の駅を利用したイベントは効果的。
- ・奥大井湖上駅、寸又峡夢のつり橋が観光のメイン。大井川鐵道の終着駅である千頭駅を核にしたまちづくりを考えたい。子どもたちの喜ぶ顔が見られる取組みを実施したい。
- ・大鉄アドバンスと連携し、バスツアーを定期的実施できればありがたい。
- ・美味しいジビエ料理を提供できる場所を検討し、入客数の増加を目指していきたい。
- ・岐阜県神岡鐵道で実施している廃線のレールを活用したマウンテンバイクの事業について、当町も参考にしたらどうか？
- ・無人駅を活用し駅伝を実施したらどうか。
- ・大井川鐵道駅舎の利用等、鐵道が不通だからこそ、実施できるイベントを提案していくことが必要。

《情報発信》

- ・被災場所をほとんどの町民が知らないなので、視察して現状を知ってもらう必要がある。
- ・町内はもちろん、町外に向けた情報発信の一本化が必要。各団体の活動について、情報発信が統一されていない。SNSを活用しキーワードを決めて投稿するなど、統一が必要だと感じる。
- ・大鐵が全線開通するまで、地元住民が魅力発信をしていく必要がある。
- ・奥泉から寸又峡間の道路のことを考慮すると、大井川鐵道本線の復旧は必要。大井川鐵道の歴史を振り返り、鐵道の方向性を見直すことは必要。動態保存されているSLをイギリスから見に来る。見方を変えてSLを未来に向け残す方法を検討して欲しい。

- ・情報発信の一本化が必要で、SNSをもっと活用すべき。
- ・外国人旅行者に対応した案内表示板等が少ない。
- ・大井川鐵道本線がストップしていても、やるべきことは多くある。
- ・町民がこの意見交換会の動向を知らない。この意見交換会の意見をどうまとめるのか。
- ・報道についてはいいチャンスだと思う。取り上げられることで、大井川鐵道の全線復旧に向け、町レベルでの取り組みが広く周知される。堂々と開いた方が良い。
- ・オープンな会議の方が広くアピールできる。
- ・戦略的に新聞等に掲載してもらうことが必要ではないか。

《提案》

- ・復旧に22億円と聞いているが、費用負担については行政が考えること。資金調達方法として、クラウドファンディングの活用等が必要だと考える。
- ・今後、大井川鐵道のあり方を含め、町の観光振興計画を進めていくことが必要。大井川鐵道がなくなれば奥大井の観光はなくなる。ひいては、町の存続にかかわると考える。
- ・今、大井川鐵道が千頭駅まで来ないから頑張るのではなく、千頭駅まで鐵道が復旧して来てほしいからという気持ちで頑張っていきたい。
- ・バスツアーでの来訪が多いが、千頭駅前での滞在時間がない。何とかアイデアを出していきたい。
- ・なぜ、クラウドファンディングを呼びかけないのか不思議である。
- ・この意見交換会が行政主催だと、行政が多忙で開催回数に限りがある。民間が主催し、行政に意見を提案する方がいいのではないか。
- ・意見交換会での意見を集約し、県が主催の「大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会」に提案することは可能か。
- ・人口減少が著しい当町では、大井川流域で連携して復旧に向け取り組まなければ復興は難しい。また、若者の力が必須である。
- ・単年度で取り組むものと、長期スパンで取り組む事業と整理が必要。個々で事業を進めていくのではなく、町の観光戦略として取り組む必要がある。
- ・当会の構成員に限らず、ワークショップを実施し関わりのある人を増やして気運を高めることが必要ではないか。現在、まちづくりをしている人に声掛けすることも必要ではないか。

《その他》

- ・ゴールデンウィークの千頭駅前周辺については、賑わいがあり自家用車の利用者が増加していた。
- ・令和4年台風第15号災害直後は、千頭駅前の事業所は売り上げが50%減のところもあった。

- ・最近は自家用車での観光客が増加している。観光客は戻りつつあるが、一部の茶業関係者は大井川鐵道が復旧しないことに危機感と絶望感を抱いている。
- ・大井川鐵道の町内不通区間は観光面でマイナス。
- ・「大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会」では、意見交換会の設置を求められているのか。
- ・新しい県知事が就任し、陳情訪問についてどう考えているか？

以上